

第3期ウイズあかし運営委員会
第1回ウイズあかし専門委員会報告書

2023年11月10日(金) 18:15~20:30
複合型交流拠点ウイズあかし 8階803学習室

参加者：専門委員 6 名 明石コミュニティ創造協会スタッフ 7 名

1. 開会のあいさつ

〈スタッフ〉

本日は天候が雨ということでお足元が悪い中、ご参加いただきありがとうございます。ごさいます。

ウイズあかしは明石コミュニティ創造協会が指定管理者となって7年目を迎え、指定管理としては2期目を迎えている。1期目から「市民がつくるウイズあかしを考える会」ウイズあかし運営委員会を実施しており、学識者2名と一般公募による市民でウイズあかしがどうしたらよくなるかについて議論を重ねた。6年実施する中で、その場では様々な議論を重ねたが、2期目を迎えたので新しいステップとしてウイズあかしをパワーアップさせたいと考えている。現在は、市民の意見を聞く場と専門の方からいろいろなアドバイスを頂く場を分けて行うということで、今回こういう場を設けさせていただいた。みなさんからはいろいろな知恵を頂いてウイズあかしをステップアップさせていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

本日は、リーダーやマネージャーなど実務で責任を持ったスタッフを中心に専門委員と直接意見交換を行う形で進めていきたいと考えているので、本日はよろしくお願ひいたします。

2. 趣旨説明

事務局よりスライドを使用して、ウイズあかし運営委員会の趣旨やウイズあかし専門委員会の目的、今後のスケジュールの説明を行った。

3. 自己紹介

専門委員6名及び明石コミュニティ創造協会スタッフ7名が自己紹介を行った。

4. ウイズあかしの全体像・現状・認識している課題の報告

事務局より「ウイズあかしの全体像・現状や認識している課題」について、スライドを使用して報告を行った。

5. 質疑応答及び意見交換

〈専門委員〉

みんなの学校やチャレンジ屋台について、具体的にどういったことを行っているのか？

〈スタッフ〉

今度実施するウィズフェス2023において、市民活動の大きなイベントであるウィズミーツと生涯学習のイベントであるみんなの学校を掛け合わせて行う。

今回は2日目にみんなの学校を実施するが、プロの講師を呼ぶのではなく、市民講師が市民に教える。今回のみんなの学校をきっかけに誰かに教えたり、出会うことがウィズあかしでできて、その先に登録メンバーズになることや講師カタログで情報をまとめ、明石のまちに周知したりしている。

チャレンジ屋台は、そのミニ版として捉えて頂き、移動式の屋台を用いて、短い時間の中で自分の好きなことや趣味を伝える機会を作っている。やってみたい人を募集し、当日までの間に広報の仕方などのスキルアップの機会を設けたりもしている。

〈専門委員〉

稼働率の計算方法を教えて欲しい。

〈スタッフ〉

午前、午後、夜間の3つの使用可能コマ数を実際に利用したコマ数で割って算出している。

〈専門委員〉

利用者数が2019年と2022年を比較すると5万人少ないが、稼働率は同じぐらいであるのは？使い方などが変わっているのが原因なのか？

〈スタッフ〉

稼働率は有料者施設の稼働率となっており、フリースペースなどの無料施設の稼働率は入っていない。フリースペースなどでイベントが増えれば利用者数は増えるので、一概には言えないが差が出ているのはそういうことである。

〈専門委員〉

そうすると2022年はフリースペースの利用が少なかったのか？

〈スタッフ〉

そうである。どうしてもコロナの影響で飲食がダメになり、以前であれば子連れの主婦の利用が多かったが、その利用者たちが戻ってきていない。徐々にイベントは増えてきているが、課題にもあるようにフリースペースに遊びの要素が必要であることにもつながってくる。

〈専門委員〉

年間通じての利用者のリピーターの割合はどれぐらいになるのか？

〈スタッフ〉

貸室の利用でいえば、毎月利用される方もいれば、企業が会場として利用したいという両方のパターンがある。フリースペースであれば登録団体や学生などの利用が多いので、一見さんよりはリピーターが多いイメージだが、実態把握まではできていない。

〈専門委員〉

目指す状態としてどういう風に考えているのか？

〈スタッフ〉

有料施設の貸室でいうと、直営時代では一般料金と営利料金の整理ができていなかった。企業が利用する場合の営利料金を設定したことは良かったが、貸室の企業利用が多くなってしまった。駅から近いので企業が面接や研修で利用する機会が増えたために、市民活動団体の予約が取れない声が出ているので、そこは課題だと思っている。予約できる期間や仕組みの検討が必要である。また、コロナ禍の雰囲気なくすためにフリースペースに遊びの要素を入れることで、いろいろな方に利用してもらえるきっかけづくりを目指している。

〈専門委員〉

営利企業が増えるということは施設使用料が増えることにつながるが、ミッションと収益のバランスを確認したい。コミ創とウィズあかしを別に考えた方がいいのかわからないが、ウィズあかしの収入というのは指定管理料の収入であり、求められる収入や行政の評価は成果として達成している状況なのか？評価は超えていて付加価値を付けるために意見を求めているのか、そこら辺を聞きたい。

〈専門委員〉

同じことを思っていて、指定管理の仕様においてどこからどこまでが評価対象なのか？

〈スタッフ〉

第2期目の指定管理の仕様書で求められているのは、ソフト事業においては10項目程度ある。生涯学習や男女共同参画、市民活動支援事業の実施、またその3つの複合型の実施、地域と連動した事業を実施するなどが多く求められている。

施設利用に関しては稼働率や数値に対する評価はなく、利用しやすい施設を目指すことや、利用料金制になっているので利用料は財団の収益となること、特に市からは求められていない。

どちらかと言えば、私たちが申請書を出す段階で稼働率は60%後半を目指すことを宣言しているところである。

〈専門委員〉

目標は比較的達成しやすいのか？

〈スタッフ〉

稼働率もすべての部屋で使われているかと言えばそうではなくて、9階の音楽練習室やリハーサルスタジオは夜の利用が少ない。その貸室の利用を増やす取り組みを行いつつ、実現可能な稼働率では提案している。

〈専門委員〉

収入は財団の収益になるので頑張らないといけないし、見込みとしては達成しやすいということが理解できた。

〈スタッフ〉

どちらかと言えばコミ創のミッションでもあるので、単純に企業が利用して収益をあげるのではなく、ミッションの実現としてやっていきたい。そのため、企業が利用することで収益が上がるが、そこはむしろ課題とっていて、多様な市民に対してどうアプローチするのがいいのかが大事とっている。

〈専門委員〉

それに関連するが、財団としてある程度収益を上げて、雇用形態も良くして、事業をいいものにしていく中で、何を指すのか？フリースペースは無料で利用できるの、利用が増えても収益は上がらない。そこにいろんな仕掛けがあって、市民活動が充実するきっかけとなるようにならないといけない。

健全に財政運営しつつ、より面白いスパイスをかけて、全体像のところで今後こういうことに注力していきたいというところを教えてください。

〈スタッフ〉

確かに財政健全化の収支のバランス、どう事業に落とし込むのかのところは、あまり考えてこなかった点ではある。

〈専門委員〉

まちとつながるという単語が多く出ているが、課題でもありミッションでもある。PDCA サイクルもしっかりできているが、まちとつながった先に何を実現したいのか？今後、専門委員会で揉んでいかないといけない点ではある。

ウィズあかしとコミ創との連携の話もトピックに上がると思う。

仕組みという言葉が多いが、この手の取り組みは属人性に頼って発揮させることが重要である。

仕組み化を目指すのは美しいが、誰がやってもできることで色気を失っていく。属人性を発揮することを考え、話し合えたらと思う。

〈スタッフ〉

まちとつながる部分では、ウィズあかしの中で生涯学習・男女共同参画・市民活動支援を行いながら、やりたいことを見つけていただく。ウィズあかしの中だけではなく、日常生活の中で楽しみを見つけ、自分のやりたいことを活かしていただく。イメージとしては、見つけたものをまち中でやりたいことを実現していただくことが大事とっている。

〈専門委員〉

まち中で、利用している市民が輝ける場所が増えたらいいということか？

〈スタッフ〉

イメージとしてはそうであり、その背景にあったのが1期目の6年間でいろんな方をサポートする中で、私たちの役割や成果は何であるかを月1回の全体会を利用して話し合った。その中でよくある例のひとつとして、1人の貸室利用者の方が同じ悩みを持つ人と共有したいということでサロンを開催した。その後、グループを作るために登録メンバーに登録し、フリースペースを活用してイベントを開催する中、地元でも開催したいとなり、いつの間にかウイズあかしからまちなかに活動に移されたケースがあった。そのケースをいいケースと捉え、2期目構想を考える際のまちにつながるにつなげた。

〈専門委員〉

まちとつながる先には、ウイズあかしを卒業する場を作っていくということか？

〈スタッフ〉

卒業が必ずしもいいという訳ではなく、時にはウイズあかしに戻ってきて、新しい情報を得てこの拠点を使っていただく、行き来できる宿り木のイメージである。そんなイメージがまちとつながる先にあり、地域の中のコミュニティセンターやまちづくり協議会等の活動支援をコミュニティ創造協会として関わりコーディネートを行っているが、ウイズあかしとしてはこの施設中で活動するスタッフが多く、まずはまちともっとつながったほうがいい事象が生まれるのではという仮説に基づいたものである。

〈スタッフ〉

それに加えると、まちとつながる先がどうしてもコミ創に関わりのある中学校コミセンやまちづくり協議会などになりがちだが、もっと地域で活躍するNPOなどともつながっていく必要があると思っている。

多様なフィールドを私たちが把握してアプローチできたほうがいいと考える。

〈専門委員〉

貸室利用者へのアプローチについて、貸室利用だけで終わるのではなく、その利用者から団体を発掘できる機会はあると思う。

〈スタッフ〉

今まではそこに余裕がなかった。そこを改善していくためにもキャッシュレスの導入などで手間を省いてお話ができる時間を作れたので、今後スタッフが意識しながら取り組んでいかないといけない。

〈専門委員〉

限られたマンパワーで地域に行き話をするのは難しいのではと思う。

〈スタッフ〉

コーディネートしていきにあたり、スタッフそれぞれが知っている団体などの情報をうまく共有していくことで、属人性の良さと仕組化をうまく両立させていきたい。

〈専門委員〉

貸室利用者へのアプローチの仕方において、普段の会話のところから手を広げ、スタッフが相手に覚えてもらうことが大事である。

つながっていないところで学校や企業やNPOを例に挙げられていたが、学校は熱心な先生がいるので、先生向けの企画を打ってみてはどうか。先生向けに教材づくりを企画し、そこで先生の信頼を得て、生徒にも知ってもらうことができ、学校とつながりを持つことができる。あと、企業については研修に参加することで担当者同士がつながることができる。

〈スタッフ〉

事業を実施するにあたり、エンドユーザーへ届けることが多かったが、それに携わる先生などへのアプローチが少ないと感じている。どちらかと言えば共催で手のつなぎ方がわかっていなかった。

〈専門委員〉

市民に届けるところでSNSとかも重要であるが、影響力のある立場にいる方にウィズあかしを知ってもらい、そこから紹介してもらうことも重要である。

〈専門委員〉

タイアップしそうな組織としてウィズあかしと同規模程度の団体やグループなど、どこかあるのか？

〈スタッフ〉

図書館とはつながりがあり、共催で企画を実施しているので可能性はある。あと会議体ではあるが、文化に関する施設の文化博物館や市民会館とはネットワークをつくる動きがあるので、そこがひとつのきっかけになるかもしれない。

〈スタッフ〉

DVセンターなどの行政機関との連携はあるが、それ以外とのつながりはあまりない。

〈専門委員〉

学校であれば、高校において総合的な学習に取り組むにあたり、地域とのつながりを先生は求めているので、担当の先生とつながることができれば高校と地域のつながりからいい循環が生まれると思う。

〈スタッフ〉

個人と個人とのつながりからどう広げていくのか。たくさんの事業を実施する中で直接支援をする事業が多いので、ネットワークの形成や仕組みづくりを考えると、バランスは見直した方がいいかもしれない。

〈スタッフ〉

地域支援において、地域のスタッフがコミュニティスクールの動きで連携したり、個別に学校の先生から相談を受けたり、個々の地域との連携はあったりするが、ウィズあかしという施設としては学校や社協などの機関との連携がない。個別の地域や先生との連携になりがちではあるので、大きなところでの連携がウィズあかしには必要である。

〈専門委員〉

何回か取り組むことで先生たちとのネットワークができるので、そこにスタッフが入ればニーズも汲み取ることができる。

〈スタッフ〉

中コミのエリアマネージャーがみんなの学校に来て、市民活動団体に対して個別にアプローチしたりする動きはあるが、さらに学校の先生が来るようになることにもつながればいい。

〈専門委員〉

まずは先生向けに男女共同参画の視点で教材づくりのワークショップを企画する。教材のネタを探している熱心な先生が集まり、そこでつながりが生まれ、交流を深めていく。スタッフが定期的集まる機会を設けることでセンターの中に先生たちが集まるネットワークが自然と生まれてくる。

〈専門委員〉

その時にスタッフがコーディネート役となり、利用者や市民活動団体とつなげることもできる。

〈専門委員〉

センターに来ることでウィズあかしのセンター機能を知ってもらうこともできる。

〈専門委員〉

ウィズあかしの3本柱のうち、どれからまちにつながるのがいいのか？

〈スタッフ〉

コミュニティ創造協会としての考え方として、市民の方それぞれにエンパワメントの段階があり、その中で自分をどう表現するのかの切り口として、生涯学習や男女共同参画、市民活動支援事業の3つがあると考えている。どの切り口からでもエンパワメントの先の選択肢がウィズあかしの中でないといけないというのは課題であると考えており、まちのフィールドのどこでもいいのではという考え方から「まちとつながる」という考え方を目指している。

〈専門委員〉

まちとつながることでどこが強くなるのかと思った。

市民活動支援だったらわかりやすい話であり、先ほどの事例からも自己肯定感が強くなる。

〈スタッフ〉

市民ひとり一人の自己実現のことを思うと、どの部分も対象となるが、まちづくりの視点で言うと、市民活動支援が大きいと思う。

〈専門委員〉

住民の視点からいうと、そもそもウィズあかしの近くに住んでいる人、そうでない人で違って来る。ウィズあかしに行ったことがない人は、ウィズあかしで何が出来るのか知らない。子育て世帯は車で移動しているので、駐車場代がネックになってくる。無料で使えるにしても、最寄り近くに住んでいる人以外の人たちは、往復+駐車場代もかかり、なかなか来る気にならない。アウトリーチはすごく大事であり、みんなが集まりやすいイオンやイトーヨーカドーなどで出張、講座の実施、サテライト会場として年に1回の西部版のウィズあかしがあってもいい。

〈専門委員〉

今の話でまちとつながって行って、市民活動している人たちが輝ける場所をたくさん作って、自己実現の機会をたくさん作りたい。バックキャストでどういう順序を辿るのか。まずはスタッフがして次のステップはこうなり、だから他で活動している人たちをキャッチできる。いいストーリーにみえるが具体的にどうステップアップするのか。理想に対してどう逆算していくのかフォーキャストとバックキャストをやらないといけない。窓口業務の副産物として何を得るのか。それぞれの業務で副産物を意識する、男女共同参画の副産物として生涯学習をとる。副産物の設定をしていれば、窓口業務でカギをわたす時に副産物を得やすくなる。

〈スタッフ〉

副産物の設定と言語化についてはスタッフの中でもまだ共通認識はとれておらず、そのためにもまわりにいる人たちやアプローチしたい団体への戦略が足りてない。

〈専門委員〉

様々な課題の中で、ICTの活用もできるとは思うし、アウトリーチを年1回実施する、動画配信なども実現することは可能と思っている。

〈専門委員〉

アウトリーチの考え方として、地域の方と一緒にイオンなどでブースを出して発表する場を作る。ウィズあかしで実施するより、西部市民会館などいろんなところのほうが、より自然に団体同士のつながりも生まれる。

動画については、今の子どもたちはタブレットを使用できるので、まち探検と団体・施設紹介をやってもらうのはどうかと思う。

〈スタッフ〉

今の世相の動きに合わせることや、スタッフが社会や地域に対してアンテナを張っていく必要がある。

〈スタッフ〉

ウィズあかしが東側にあるので西部エリアをどうするのかという問題はずっとある。市内の生涯学習拠点である中学校コミセンが今のままでは課題であり、中コミ改革をやってきた。エリアマネージャーが地域の中でコーディネートしていくことが望ましいとも思っている。話を聞くと、西部市民会館や市民会館などウィズあかしだからアプローチということもあると感じた。

〈スタッフ〉

まずは自分たちが理想とするところを整理、設計するのがいいのではと思っている。それを踏まえたうえで誰と手をつないだらいいのかや、手のつなぎ方を設計するなど一度考え直さないといけない。そもそも、まちとつながることをどう捉えていくのか。

今後に向けて、宿題やこうしたことに着目したらいいというのがあればお願いしたい。

〈専門委員〉

宿題として、センターとしての課題と市民からの意見の軸を一緒にして考えていくために、ひとつの資料に落とし込んだ方がいいのではないかな？

〈スタッフ〉

西部地区にセンターが必要など共通することも多いので対応させていただく。

〈専門委員〉

運営委員会と専門委員会は最終的に目指すところはようになっていくのかな？

〈スタッフ〉

過去の運営委員会では意見交換しながら、大きなテーマとして変化を捉えるということが一つあった。日々の利用者との関わりをもっと着目するべきということで、日報をつけるようになり、利用者からお褒めの言葉やクレーム、相談の声を書き残すことができるようになった。

今回の専門委員会においても、今の時点では最終的に目指す具体的な形が定まっている訳ではないが、今日の意見の中でもこの2年間に取り組むべきヒントはあげていただいた。みなさんの意見も踏まえて、最終的に報告会ができたらと思っている。市民から意見を聞く場を最初と最後だけでいいのかどうか、改めて再設計しないという思いはある。

〈専門委員〉

かなり幅広いので、これからどういう風に絞っていくのか。ここで出た意見を踏まえつつ、絞っていくことになるのか。

〈スタッフ〉

今のウィズあかしを意識しなくてもいい。運営委員会で意見を聞いても西部地区やPRの問題など大きく変化はない。今までと違った視点で斬新な部分が必要である。この施設が他の施設と相対化して考えるとまだまだだと思ふ。明石の中では頑張っていて、市民の方からも評価を頂いているところに甘んじてはいけない。もっと違う要素を

いただかなければこれらの課題は解決できない。

〈専門委員〉

広域制、先導性が必要であり、ウィズあかしがトップランナーとして走るのならば、ウィズあかしのスタッフがクリアしないといけないし、引っ張っていかないといけない。生涯学習として企画する上で大事なのは、参加者にインセンティブとモチベーションを与えなければならない。

〈専門委員〉

2回目、3回目とかテーマは決まっているのか？

〈スタッフ〉

一旦整理して、次回のテーマをどこから進めるのか、決めることからできればと思う。

〈スタッフ〉

本日はウィズあかし全体の話からということだったが、男女共同参画や市民活動など具体的なところをフォーカスするのがいい。

〈専門委員〉

それぞれのリーダーもいる中でテーマを絞るほうが話し合いしやすい。

〈スタッフ〉

次回は男女共同参画をテーマにしたいとは思っている。

〈スタッフ〉

こちらからの説明が多くなってしまったが、それらを踏まえての大きな視点で意見をいただきありがとうございました。いただいた意見をスタッフ全員が整理するところから取り組み、次の準備を進めさせていただく。

〈スタッフ〉

次回の開催が1月を予定しているので、早急に日程調整させていただくとともに、本日出た意見を纏めて、議事録を送付させていただく。

6. 閉会のあいさつ

〈スタッフ〉

みなさん、熱い議論をありがとうございます。本日は、ウィズあかしが行っていることを知っていただく情報提供の部分が多かったが、専門委員会ではスタッフが発想できないまったく違う視点で意見をいただければと思う。本日もいろいろな意見を頂いて、大変参考になった。こういう議論にスタッフ自身が触れていく専門委員会となることを期待している。さらにもう一つ上の視点からの議論に触れることが抱えている課題を切り崩していく機会になると思っている。スタッフがみなさんの議論に入っていくように臨んでいきたいと思う。2年間という長い期間になるが、ウィズあかしのこれからのメスを入れる機会になればと期待し、次回はテーマを決めて議論していきたいので引き続きどうぞよろしく願いいたします。

本日は遅い時間の中、ご参加いただきありがとうございました。

【意見交換まとめ】

